

JR日田駅から徒歩約16分

廣瀬資料館

4年半の修復工事を終え2023年4月より公開範囲を広げて開館。江戸末期に金融業で栄えた廣瀬家の史料や、淡窓・廣瀬八賢の貴重な遺品を展示。



☎0973-22-6171 図日田市豆田町9-7 図9:00~17:00 図月曜(祝日の場合は翌日)、12/31~1/2※2・3月と10・11月は休みなし 入館料450円(小中高生350円)、身体障害者200円

JR日田駅から徒歩約16分

いた屋本家

170年もの間人々に愛されてきたうなぎのせいろ蒸しは、脂ののった鹿児島産うなぎを使い、香ばしくふっくら。5月末~9月末は天然の鮎料理も。



☎0973-22-1182 図日田市港町3-29 図11:00~14:30 図火曜

JR日田駅から徒歩約19分

日田醤油(ひな人形ミュージアム)

江戸期から続く味噌・醤油の老舗。店舗奥がミュージアムとなっており、3代目店主が収集した4,000体もの雛人形を一年を通して見ることができる。



☎080-4275-0898 図日田市豆田町13-6 図9:00~17:00 図元日 図入場料300円

JR日田駅から徒歩約17分

日本丸館

薬を売り始めた江戸時代から昭和まで増改築を重ねた迷宮のような日本家屋。春と秋に一般公開しており、薬局ならではの珍しい展示物も。



☎0973-23-6101 図日田市豆田町4-15 図10:00~16:00 ※春・秋のみ開館 図12/1~2/14、6/1~8/31(見学は要相談) 図入場料350円(小中高生250円)



14



15



16

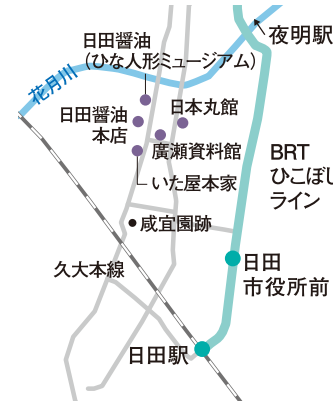
14 廣瀬資料館の主屋にある帳場。当時の両替の様子を再現。15 厳選された史料展示の解説も充実。16 正面が1853年築の「新座敷」。こちらの内部も展示室に大改装。17 儒学者・廣瀬淡窓と淡窓を支えた8賢人の業績を展示。

爆発的なヒットとともに、住居兼社屋を広げていった日本丸館は、昭和初期に増築された天守閣のような3階部分が素晴らしく、豆田を一望することができる。また老舗の日田醤油は、「ひな御殿」という別名の通り、新旧のお雛様コレクションが日本家屋の中を埋め尽くし、圧巻だ。他にも、築三百年の重要文化財や重厚な百年酒蔵など、見どころは尽きない。せっかくなので日田温泉に一泊し、老舗のうなぎや鮎料理を味わいつつ、のんびりと楽しんでみてはいかがだろう。



1 春に公開する大座敷の雛飾りも壮観。2 生活感を残した展示が興味深い。3 館内随所に見どころが。4 江戸時代は「伏見屋岩尾古雲堂」と称していた。(1~4 全て日本丸館) 5 南北の通りが2本あり、その間を小道が東西に走る豆田町。どこを歩いても絵になる。

さまざまな時代の
歩いて楽しむ豆田町の残り香を



BRTと接続する日田駅は、特急「ゆふいんの森」も停車し、乗り降りする観光客も多い。そんな日田市内で約20年前前に伝統的建造物群保存地区となった豆田町は、町屋の白壁や瓦屋根といった統一感のある景観が魅力だ。しかし一軒一軒の建物を見ていくと、それぞれに異なる特徴や時代の跡が見取れて、面白い。江戸後期に咸宜園を開塾した儒学者の廣瀬淡窓の実家、廣瀬資料館は質素節約の理念から、外壁の塗装が白漆喰ではなく、中塗り段階の黄土色をしている。万能薬「日本丸」の国内外での



14



18

19

18 日本丸館に展示された古い薬箱。19 通りから見上げる木造3層の建物。1階は現役薬局で、2階は常備薬から日田のお土産まで販売。20 日田の町並みを一望でき「豆田の天守閣」と称された3階の展望様。



13



10



12

11



8



6



9

7

6 ひな人形ミュージアムの目玉、常設として日本最大級の10段飾りのお雛様。7 日田醤油本店から徒歩1分。8 店舗ではしょうゆソフトクリーム400円も人気。9 新商品のディップ他、全商品、試食可能。